

ながきよのとをのねぶりのみなめざめなみのりふねのをとのよきかな十の眠にて十界をいふ長夜の眠の中に十界を流轉すみなめざめは皆目醒也といへどをとほ音なるべければおとのかな也いかゞ

〔日本風土記五〕廻文詞

乃革氣搖那多多疑下多字下同和那捏不里那密乃密索密乃密那里不捏那和多那搖氣革乃

此譜倒順讀之字語意理相同故曰廻文

釋音 乃革氣搖長夜那助語多多和那十人捏木里那困倦密乃密索密醒乃密那里浪上行不捏

船和多那响搖氣革乃好切意十人共舟夜長困倦浪裏舟行各皆醒看

〔日次紀事十二月〕同夜分節 禁裏貼畫船於白紙而賜宮方及諸臣地下良賤亦畫船以敷臥榻之被底

寢今夜有吉夢則來歲得福云若見惡夢則翌朝付是於流水是謂流惡夢倭俗斯船內畫種種珍寶故稱寶船近世是亦餞梓而兒童賣市中大呼寶船々々是又中華紙船之類乎

〔年中行事故實考十二月〕たから船 舟に色々の寶をつみたる繪を枕の下に敷よき夢を見ては

つなぐといひ惡夢を見てはながすといひてことぶく

〔日本歲時記七月〕晦日 又今夜船を畫て褥の下に藉事ありこれ韓退之の送窮文に本づける

にやといへる人もあれど利欲に汲々たるは世俗の通患なれば船にたからを積て我家に入ん事をこひねがひ夢になりともその事を見まほしさに俗人のかくはするなるべし誠に婦人女子のたはぶれにして丈夫たる人のすべき事にあらず

〔改正月令博物筌十二月〕寶船紙に寶舟の繪を書て節分の夜人の寢る床の下に敷也或人のいは

人のまどろむをいれ つむといふに同じ

〔近世事物考〕寶船 當世正月二日の夜人毎に初夢とて寶舟の畫を枕に敷なりこは古く唐にて